

町田市議会議員 **良識ある保守主義**

吉田つとむ

交通文化都市◆取材・記事作成・総合編集

町田市議会
〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-2 2
☎042-724-2171
「保守の会」派室
自宅042-795-7361



7期目の議会活動

プラスチックの分別収集・処理

町田市は、容器包装プラスチックの分別収集を決定し、2016年4月からJR横浜線より南の地域（通称：南地区）で行っています。この南地域内には、収集した容器包装プラスチックを圧縮梱包する中間処理施設を南地域内に設置して、町田市外の再資源化の専門業者に引き渡しが行われています。



自分で撮影した関連写真を掲載

この事業はゴミの資源化を広げる目的で2020年の今日では全域で実施されているはずでしたが、残りの2ヶ所設置計画は順調に進まず、地域によってその実施期間に大幅にずれが生じています。そのため、その町田市の南地区以外のお住まいの方は、町田市が容器包装プラスチックの分別収集を行っていること、あるいはその事業を進めていることすら知らない方もあるでしょう。1ヶ所は土地の手当てをして2024年に建設し、他の1ヶ所は別の地域に2026年に建設する構想ですが、後者は未だ土地の手当てすら整っていない段階です。（続きの記載は、今度の議会の質問テーマの一つに予定しています）

コロナ感染状況と情報の公開

町田市内では、7月31日までの新型コロナウイルスの感染者数が、111人（居住実態に基づく人数）でしたが、8月1ヶ月だけで、それに匹敵する人数に及んでいます。今回（第2次）の感染拡大では、区部に匹敵する人数の感染者が出ています。

8月中旬までの最も多い日には10人に近い感染者が何回か発生していますが、問題は、それが、どのような場所で、どのような経過があったがまったく公表されていないことです。理由は、当該の個人が特定されないようにと、東京都が公開をさせないためです。現状では、自己責任の感染と言う次第です。

山梨県の考え方、情報公開状況を調べました。感染者の個人ごとに、氏名を載せず、年代、性別、居住地（県）、生活圏（市レベル）し、職業などの記述があり、さらに症状・経過が次のように詳しく掲載されています。5日（水曜）発熱（38.2℃）、咽頭痛、医療機関A受診。6日（木曜）解熱。7日（金曜）医療機関B受診。12日（水曜）嗅覚異常。13日（木曜）医療機関C受診。14日（金曜）帰国者・接触者相談センターに相談。帰国者・接触者外来を受診。PCR検査の結果、陽性を確認。症状はなし。15日（土曜）県内医療機関に入院。駅から自宅までは自家用車を利用）などを具体的に記載。症状経過の記載が参考になります。



山梨県の健康・保健サイトのHP写真を掲載

町田市議会議員・若者育成の街

吉田つとむ

良識ある保守主義を目指す

町田市議会
〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-2 2
☎042-724-2171
「保守の会」派室
自宅042-795-7361



インターンシップ好評

インターン体験記②-1 日高彩貴

インターンシップ2日目は、午前を目黒区議会の見学へ向かった。そうだ次郎議長のお話を聞いた後は、議長に本会議場を案内していただいた。目黒区議会をみたときに、以前見学した町田市議会との相違点を知ることができた。町田市議会では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策で議員の座る席を一席空けて傍聴席を議長として使用し、傍聴は別室で行っていたが、目黒区議会では、隣同士の席にパーテーションも置かれていない。議長によると、発言者は基本的に演壇で発言をするため、傍聴を別室にせず議会を開いているとのことだ。そして、2階にある傍聴席のガラス板を高くすることで対策を行っていた。この見学では、新型コロナウイルス対策における両者の考え方の違いを見ることができた。*目黒区議会本会議場



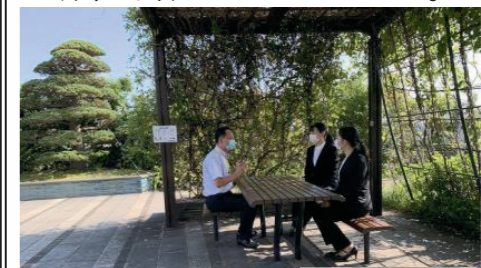
昭和女子大学2年生 日高彩貴(第46期生)

インターン体験記②-1 星野ひとみ

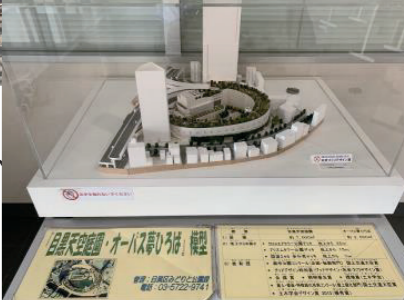
インターンシップ2日目の今日は、午後から目黒区にある目黒天空庭園を視察しました。

この施設は首都高速道路の大橋ジャンクションの上部に造られた公園施設で、立体都市公園制度に基づく開発事業で造られました。地域の景観や環境、誰もが利用できる憩いの空間や多目的に活用できる空間を創出することを目的とし、高速道路の上部を覆蓋することで、空間の有効活用を図るものでもあります。

実際に庭園内を見て回ると、緑豊かな空間で、四季を通じて自然が楽しめるようになっています。天空庭園に隣接したビル内の同フロアに直結して図書館が設置されていることもあり、休憩スペースで読書をする方の姿も見られました。また、子育てをすることを考えると、子供の遊び場や自然を体感できる場所としても活用できると思いました。都心はやはりビルが多く、他の地域に比べ自然が極端に少ないように思います。その中で、高速道路の上というデッドスペースに着目することは非常に面白い観点で、都心ならではの緑化事業だと思いました。



*インターン生の研修先については、全部の訪問地でマスク姿で通しています。



昭和女子大学3年生星野ひとみ(第46期生)

町田市議会議員 **3期連続トップ当選**

吉田つとむ

若者育成の街◆取材・記事作成・総合編集



左上はブログ
右上は新規の
ビジュアルサイト



インターン生募集中

インターン体験記①齋川 結衣

南町田にあるリレーセンターみなみは、燃やせるごみの中継施設である。大型車に積み替えられたごみは、町田リサイクル文化センターに運搬され、焼却される。そのため、収集と運搬を効率的に行うことができる。また、2016年より容器包装プラスチックを圧縮梱包する施設としての役割も担っている。これにより、資源を再利用し、ごみの減量に貢献することができるようになった。

私は施設の見学を行うにあたり、容器包装プラスチックを処理する過程の1つに着目した。それは、ベルトコンベヤで容器包装プラスチック以外のごみや汚れの付着したごみを人の手で選別する作業である。ごみがコンベヤを通過するスピードは速く、きちんと分別されていない様々な種類のごみの中から不適物や異物を取り除くことは集中力を要するようだ。また、刃物や注射器などの異物も含まれており大変危険である。今以上に一人ひとりがごみの分別の意識を高めるべきであると感じた。私は、手選別でごみの分別を行う人の存在を広く世間に知らせることが必要であると考えている。そのために、定期的に広報誌やホームページに記事を掲載したら良いのではないだろうか。



昭和女子大学3年生 齋川結衣(第46期生)

★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行実施
★ 大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。
インターン希望の方、関心がある方は、ホームページの掲載要旨をご覧の上、ご連絡ください。

インターン体験記①佐々木 愛花梨

インターンシップ初日はプラスチック集積所である「リレーセンターみなみ」にて、容器包装プラスチックごみの処理過程を見学させて頂きました。事前の打ち合わせの段階と、実際に施設見学をさせて頂く中で、初めて知ったことが多く、大変勉強になりました。



まず第一に、「燃やせるゴミの中継施設」という存在自体知らず、特に私の地元のように地方だと、専用搬出車を見かけたことはありませんでした。気になって調べてみると私の出身地にも1か所あり、さらにリレーセンターみなみのような設備の納入実績があるということでした。出身地にいた時に出したごみがこの町田市のように運ばれていたと思うと急に親近感のような、変な気分になりました。リレーセンターみなみの所在についても非常に驚きました。小学生の頃にごみ処理場の見学に行った際のイメージでいたので、その小規模版のようなものと想像していましたが、街中に急に現れその上マンションの下であるというのは想定外でした。マンションの下にこのような施設が存在し、ごみ処理場として日々稼働していることは、地方出身の私にとっては流石だなと思えませんでした。(次のページに続く)

町田市議会議員 **良識ある保守主義**

吉田つとむ

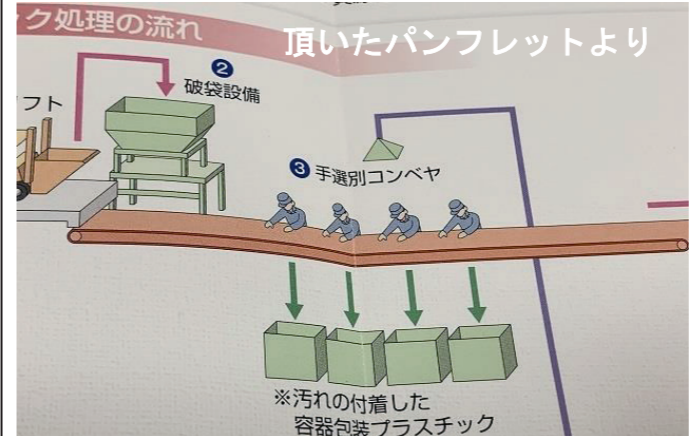
情報公開は政治と議会活動の基本

町田市議会
〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-22
☎042-724-2171
保守連合会派室
自宅 0427957361



市議会の傍聴・見学

マンションの下とはいえどもマンション内ということから、住人や近所からクレームなどが発生しないのだろうかと思いついたところ、施設内自体のごみの臭いは仕方ないものであるけれども、外に排出する空気には臭いの成分が0の状態に排出されるようなシステムだから何も問題はない、ということでした。むしろ住人の方から「この下にごみ処理場があるのは本当ですか？」と尋ねられるほどであるそうです。そこまで何の問題もなくいられることは本当に凄いことだと思いました。ごみ処理場なのだから、些細なクレーム程度は否めないのだろうかと思いましたが、私の杞憂だったようです。



そして施設内でなにより驚いたのは、ベルトコンベヤでの手選別過程です。人間の手作業でごみに関して行うことは、ごみ収集がされた後の過程でまさかあるとは思っていなかったため、思わず声が出てしまいました。そして収集物の乱雑な分別の実態も目の当たりにしました。選別をして下さっている方々はたったの8人、そして見てだけで目が回りそうな作業をひたすらハイペースで手際よくごみをかき分ける姿には感動しましたが、それと同時にこの重労働にやるせなさのようなものを感じました。この選別作業が機械化できれば、とは思いつつやはり正確さと判断力はマンパワーにはかなわないものもあるということを実感しました。機械化やAIに頼る時代が加速しているとは言え、世の中にはまだ多く残っ

ているのだと考えさせられました。そして、注射器や乾電池、チャッカマンをそのまま捨ててもどうでもいいと思っている人が多くいる現状を知り、自分はそういうことがないように、これまで以上に分別には気を配ろうと思いました。

打ち合わせの段階で話題になっていた、町田市の容器包装プラスチックの分別問題について、難しい課題が多くあることが分かりました。対策やシステムの違いから地域間で起こる摩擦や、その仕組みがあることによる二次的な問題の発生などを考慮していくと、大きな施設の設置や方針の変更というのは、かなり広範囲にわたっての配慮と費用がかかるのだなということを知りました。そして、県市町村などの議員の方々はどういったやりとりを日々行い、隣接する市町村との折り合いも鑑みながら企画を進めているのだと考えると、本当に大変なことなのだと思いました。そして、そういう見えない裏の部分を知ることによって、表面的な眼前の問題だけ取り上げ抗議や不満の声を上げることはとても安直であると思いました。こういったことは致し方無いし当然だが、ここで学んだ経験から、私は何か意見や反論があるときにはまず潜在的な要因があるのかもしれない、ということ念頭に置き、一度考えてから何かアクションを取ろうと思いました。

昭和女子大学3年生 佐々木愛花梨(第46期生)



事前に現地状況の概略説明を受ける

●この市議会報告は、毎月ごとに2回(まれに3回)発行しています。その作成・配布費用は年に2-3回ほど政務活動費を使用することがありますが、それ以外は全て自費で発行しています。